

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 203人 国語B 203人

② 数学A 203人 数学B 204人

5 留意事項

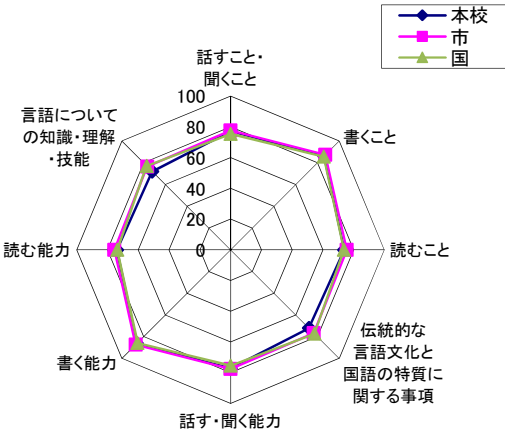
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

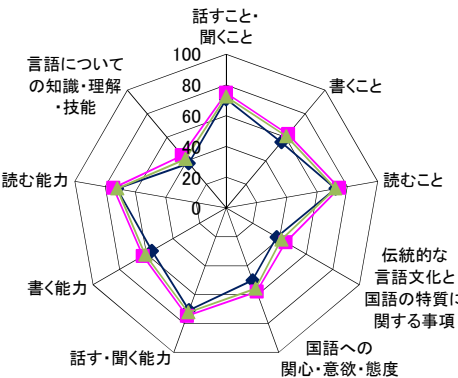
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.2	77.6	75.4
	書くこと	86.2	87.3	85.7
	読むこと	74.0	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.1	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.2	77.6	75.4
	書く能力	86.2	87.3	85.7
	読む能力	74.0	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	72.1	76.6	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.8	74.8	72.4
	書くこと	55.8	62.6	60.8
	読むこと	72.2	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	37.9	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	50.1	58.0	55.9
	話す・聞く能力	70.8	74.8	72.4
	書く能力	55.8	62.6	60.8
	読む能力	72.2	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	37.9	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

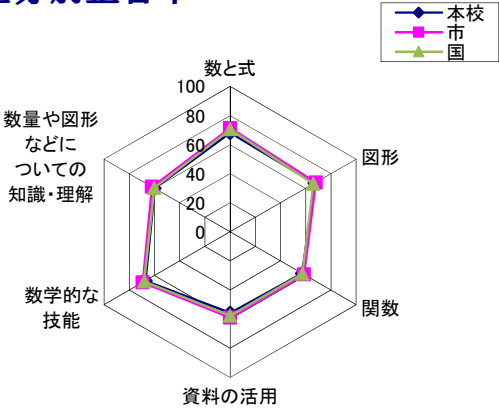
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○[A主として知識]では正答率77.2%(全国との差+1.8ポイント)で、概ね良好である。特にスピーチの際にイラストを提示する箇所を問う問題の正答率が89.2%と高かった。 ●[B主として活用]のスピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて修正する問題では、正答率が51.7%(全国との差-5.9ポイント)と低く、課題である。	・話すこと・聞くことについては、国語だけでなくすべての教科でグループによる話し合い活動を取り入れた授業を実践している。今後は、「聞き取り、考え、発言する」という点を重視した話し合いを行い、話し合いの論点や話し手の意図を捉え、考えをもって発言させるよう指導していく。
書くこと	○[A主として知識]では書くことの正答率は86.2%(全国との差+0.5ポイント)で、概ね良好である。目的や意図に応じて材料を集め、考えをまとめる問題で94.1%の高い正解率だった。 ●[B主として活用]のアンケートの内容を考え、その理由を書く問題の正答率が60.6%(全国との差-8.2ポイント)と低い。	・授業において「書く」活動を多く取り入れることで、書くことへの苦手意識は低くなってきている。しかし、読み手を納得させる理由を書く力は十分身に付いているとは言えない。今後は正解のない課題について、理由をあげて書かせる機会を増やし、思考力と文章表現力の向上を図っていく。
読むこと	○[A主として知識]で正答率74.0%(全国との差+0.2ポイント)、[B主として活用]で正答率72.2%(全国との差+0.1ポイント)であり、概ね良好である。特に小説に書かれている内容を把握する問題の正答率が87.8%と高い。 ●[B主として活用]の比喻表現を含む自分の気に入った一文を抜き出す問題で正答率が37.9%(全国との差3.5ポイント)と低い。	・授業における音読指導や全校で取り組んでいる朝の読書活動が効果を上げ、書かれている内容を捉える力は身に付いている。今後は文章の理解にとどまらず、目的に応じて必要な文章を読み取り、複数の情報を集めたり、整理したりする活動を取り入れ、読み取ったことを活用する力を養う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●漢字を書く問題の正答率が低く、「規模」を書かせる問題の正答率が51.2%(全国平均との差-11.6ポイント)、「延期」を書かせる問題は正答率42.4%(全国平均との差-19.9ポイント)であり、課題である。 ○適切な敬語を選択する問題の正答率は88.7%(全国平均との差+3.0ポイント)で良好といえる。	・漢字の読み書きについては、こまめに小テストを実施するなどの方法で定着を図っているため、継続して実施していく。 ・実際の文章の中で漢字を使わずに仮名表記で済ませる場面が多く見られる。ノート指導や作文指導の際に、なるべく漢字を使うように促し漢字を書く力を伸ばしていく。

宇都宮市立若松原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

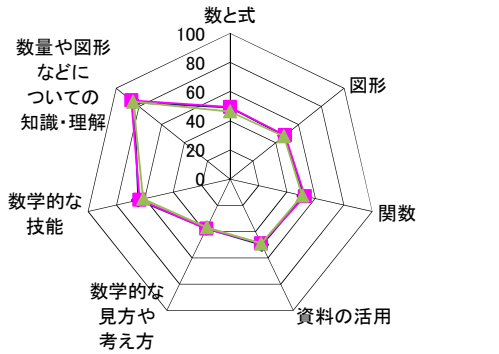
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	68.1	71.4	70.4
	図形	67.1	67.9	66.0
	関数	57.1	58.6	57.4
	資料の活用	55.7	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	67.2	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	59.9	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	49.2	49.4	46.3
	図形	47.7	48.3	47.1
	関数	51.8	52.7	50.8
	資料の活用	50.0	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	37.6	37.8	36.8
	数学的な技能	64.7	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	84.3	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は市の平均とほぼ同レベルにあり、学習内容は概ね定着している。 ●理解の遅い生徒には、机間指導による個別指導等に対応してきたが、理解の定着までには至っていない。	・基本的な計算の技能がなかなか定着しない生徒に対しての個別指導を充実させ、更に全体の底上げを図っていききたい。また、過去に学習した内容を忘れがちなので、授業の中で既習の内容を取り扱ったり、家庭学習の充実を図ったりしていく。
図形	○平均正答率は市の平均とほぼ同レベルにあり、学習内容は概ね定着している。 ●それでも他の分野と比べると、図形分野を苦手と感じている生徒が多くみられる。	・最初から図を与えずに問題文のみを与え、自分でイメージして正確な図をかき、必要な情報を図に書き込み、問題を解決する等の地道な作業を繰り返し指導していく。
関数	○平均正答率は市の平均とほぼ同レベルにあり、学習内容は概ね定着している。 ●特にグラフについては、表や式をもとに、座標に一つ一つ点を取りながら指導してきたが、グラフの読み取りに関する問題を理解していない生徒がいる。	・関数の指導については、表、式、グラフの3つを有効に活用して問題解決にあたらせていく必要がある。特に、グラフを頭の中でしっかりイメージできていないと問題の理解は難しいので、グラフを書かせる時間を十分に確保して指導に当たる。
資料の活用	○平均正答率は市の平均とほぼ同レベルにあり、学習内容は概ね定着している。 ●資料のどの部分に着目して問題を解決していったらよいかという問題解決の糸口が見つけられない生徒が多い。グループ活動等を通してよりよい問題解決の方策を話し合う時間を多く確保してきたが、まだまだ理解が難しい。	・資料の活用は、他の分野で培った総合力が試される分野である。特に、簡潔で目的に合った表やグラフの作成能力が問われるので、関数の時間を中心に、表、グラフを作成する時間を十分に確保するとともに、参考例を提示するなど、有効に資料を活用できる力を育てる。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学びに向かう力】

- 「学校で、好きな授業がありますか」(肯定割合84.0% 全国との差+4.8ポイント)
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」(肯定割合86.5% 全国との差+6.1ポイント)
- 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」(肯定割合77.8% 全国との差+6.8ポイント)
- ・学習に対して、前向きに取り組んでいることがうかがえる。今後も結果だけを評価するのではなく、取組への意欲に目を向け、認め、励ますことを心がけていく。

【将来を見通す力・保護者とのコミュニケーション】

- 「将来の夢や目標を持っていますか」(肯定割合79.2% 全国との差+8.7ポイント)
- 「家の人(兄弟姉妹を除く)と将来のことについて話すことがありますか」(肯定割合74.9% 全国との差+14.2ポイント)
- ・将来に関してよく考えている。家庭での関係も良好と考えられる。学校からの情報発信を継続し、保護者の協力を得ながら学習に向かわせる。

【学んだことの活用】

- 「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか」(肯定割合79.2% 全国との差+8.3ポイント)
- 「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」(肯定割合55.1% 全国との差+9.8ポイント)
- ・学習したことを生活の中で生かそうとする意識が高い。活用・探究型の授業改善を進めてきた成果である。継続して授業改善を進めていく。

【家庭学習】

- 「家で、学校の授業の予習をしていますか」(肯定割合42.5% 全国との差+10.8ポイント)
- 「家で、学校の授業の復習をしていますか」(肯定割合66.2% 全国との差+15.7ポイント)
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」(肯定割合59.4% 全国との差+7.9ポイント)
- ・家庭学習の習慣は概ね良好である。家庭学習の習慣をさらに多くの生徒が身につけられるよう、見本となるチャレンジノートの掲示やスタディーウィークの取組を進めていく。

【地域とのかかわり】

- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」(肯定割合53.7% 全国との差+20.3ポイント)
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」(肯定割合33.3% 全国との差-8.8ポイント)
- ・地域のために力を尽くしたい生徒は多いが、何をすべきかわからず行動に移せていない。地域の活動に気軽に参加できるように地域の方に中学生の参加を促すよう働きかけていく。

【国際理解への関心】

- 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いますか」(肯定割合71.0% 全国との差+6.7ポイント)
- 「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思いますか」(肯定割合38.7% 全国との差+5.8ポイント)
- ・英語への興味、関心はもともと高かった。外国について調べる活動などで生徒のニーズにこたえ、国際的な視野を身に付けさせていく。

【言語活動に関して(1話し合い・発表)】

- 「1, 2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」(肯定割合88.8% 全国との差+7.0ポイント)
- 「1, 2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」(肯定割合76.3% 全国との差+5.0ポイント)
- ・地域学校園の小学校と連携し、話し合い活動に力を入れ、グループで話し合いや1分間スピーチでの発表に取り組んできた。今後も継続して取り組んでいく。

【言語活動(2書くこと)】

- 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」(肯定割合53.6% 全国との差-8.9ポイント)
- 「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」(肯定割合58.0% 全国との差-4.8ポイント)
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」(肯定割合74.4% 全国との差+8.5ポイント)
- ・教科の枠を超え、授業に言語活動を取り入れてきた。理由をあげて発表したり、文章を書いたりすることを大切にできた。文章を書くことに自信がもてずにいる生徒に対して、興味をもてる課題を提示し、200字程度の短文を書かせる機会を増やすことで、文章表現への意欲と自信を高めていく。

宇都宮市立若松原中学校（第3学年） **学力向上に向けた学校全体での取組**

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業の振り返りカードを各教科で準備し、授業で身に付けたことを確認させている。	質問紙調査の「1, 2年の時に受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」の項目で肯定割合が前年度比4.3ポイント向上している。
思考力、判断力、表現力を育成する	すべての教科の授業で、グループによる話し合い活動や、発表、考えをまとめ、書かせる活動を行っている。	質問紙調査の「1, 2年のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」(肯定87.4%)「生徒の間で話し合う活動をよく行っていましたか」(肯定88.8%)の項目で肯定割合が高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査で、国語の漢字書き取りや数学の知識・理解の問題で全国平均を下回る問題が多く見られた。	小テストの実施方法や宿題の出し方を工夫し、繰り返し学習を行わせる。知識の定着を図るため、ドリル的な学習を行う。	漢字の書き取りや数学の計算など、短時間で実施できる小テストを繰り返し行う。また、小テストに出題する内容を家庭であらかじめ学習させることで知識および理解の確実な定着を図る。